

大阪府知事 松井 一郎 様

民主党・無所属ネット大阪府議会議員団

幹 事 長 中 村 哲 之 助

政務調査会長 富 田 健 治

府政への提言～平成24年度予算に向けて～

松井知事、ご就任おめでとうございます。

知事の所信表明演説では、「丁寧な議論を真摯に重ねていく」という対話の姿勢を持って、府政に取り組むことが示されました。今後は、府民のさまざまな声を府政にしっかりと取り入れて丁寧な府政運営に徹してほしいと思います。前知事と比較されて大変ですが、松井カラーをしっかりと出して、「信念と覚悟」で乗り越えることを期待します。

ところで、現代の民主主義とは何か？アメリカの政治学者アーランド・レイプハルトは、世界の民主主義諸国を多数決型民主主義とコンセンサス型民主主義とに分類しています。多数決型、コンセンサス型の内容については、この場であえて申しませんが、レイプハルトは各国の比較研究において、「コンセンサス型民主主義の全体的なパフォーマンスは多数決型よりも明らかに優れているので、現在、新しい憲法を制定しようとしている国や、政治改革を実行しようとしている国にとって、コンセンサス型民主主義の諸制度はより魅力的な選択肢であるといえる」と提言しています。

まさに、大阪府の長と議会との関係は、完全な二元代表制といえる状態ではなく、多数決でいつでもどんな政策でも実行できる、いわば一元代表制の状態です。

だからこそ、新たな制度や仕組みそのものを作り上げるには、まさにレイプハルトが提言するコンセンサス型民主主義を目指すべきで、そのためには、知事が所信表明で示した「対話」と「丁寧さ」が不可欠ではないでしょうか。

知事は、自ら「職員基本条例」や「教育基本条例」を提案される予定で、さらに「新たな大都市制度の確立」に向け、「府市統合本部」や府と大阪市、堺市のそれぞれの首長・議会等で構成される協議会を立ち上げ、「大阪を変える」行動を起こそうとしています。

府民の思いを一つにしないまま強行すれば、「大阪を変える」ことが失敗に終わります。さまざまな意見を汲み取っていく行動を重ねていくべきです。知事は、間違っても十分に議論をしないまま、これらの施策を強引に押し進めることのないよう、肝に銘じていただきたいと思います。

今回の提言では、今年8月5日に提出いたしました「府政への提言」をさらに充実させた形となっております。以前に我が会派からの提言に対して、理事者からは「国に働きかける」「国の動向を見極めて」といった回答が多いように思いました。財政

の厳しい状況ではありますが、所信表明で「地域のことは、地域が決める」と知事が打ち出す以上、府は「地域の課題は地域で解決していく」という気概を持って、府独自の新たな施策を十分に検討していただきたい。また、現に取り組んでいる施策についても、その施策がどれだけの効果を上げているか、検証をしっかりと行い、効果が不十分な場合には早急に対策をお願いします。

平成24年度予算の編成ならびに今後の施策にあたり、以下の項目を踏まえ、取り組まれるよう強く要望します。